

下市田区 令和6年度地元町議会議員と区民の懇談会（令和7年2月15日）

<記録4：自治会加入者と未加入者の負担の公平化、自治組織の今後>

光沢副区長

地域協議会について、町のサイドからある程度そういった方向づけとか選択肢みたいなものが出ているのでしょうか。

三浦喜久夫議員

町としては地域協議会でこうっていうところはまずないと思います。やるとしたら足並みを揃えることになると思うんで、他の地区からもそういった意見が出てくれば考え方を示してくれるかと思いますが、現段階ではないと思います。

小沢恵子議員

去年の12月に40代、50代の町民の皆様に、自治組織に関するアンケート調査のご案内、ご協力をお願いということで、町から葉書が届きました。ちょっと町の方に質問しに行ってきたんですが、回答がまとまり次第公表するという予定はあるそうです。高森町のまちづくり基本条例では、自治組織への加入が努力義務にはなっているのですが、今後は町としても何か関わっていかねばならないのではないかと、そのためにどんなことができるのかということで、このアンケートを行っているそうです。

会場から

以前、町で未加入の人たちを集めて、どういう訳でっていう会議を持った記憶があるんですよね。それが今になって騒いでるんですけど、やっぱり下市田区から発信して、もう完全に入ってる人と入ってない人の格差をつけるようなことを考えて、すぐにやっていかねば。30年、40年も前からの話がまだ令和になっても同じことを繰り返してるだけ。もう、ある程度方向性を決めてやっていかないと、いつまでたっても結論が出ません。何か考えないと、もっと少なくなって、自治会組織が成り立たなくなる。町がアンケートにとってどうのこうのなんて言っても、もう追い

つかないのでは。同じことを言っているけど全然進歩がないのだから、何か次の一手を考えた方がよっぽどいいと思うんです。

今日の会議で私が聞きたいのは、下市田区が町会議員の人たちに何を要請して、町会議員は何を下市田区に対してやっておるんだか、そこんところが聞きたいです。

地域協議会っていう話もありましたけど、松尾や伊賀良の人たちの話を聞いた時に、もうみんな抜けてっちゃって、いくら説明してももうどうしようもないと。上久堅とかは新しいことを考えてまとまるっていうことも聞いてますので、全部を否定するわけじゃないですけど、やっぱり人が集まるところはそれなりに減っていくってことは承知してます。

会場から

婦人ふるさとが昔、活発で、よくマイクロバスで勉強に行ったり楽しい旅行をさせてもらって、違う常会の方とも交流ができたり、あの運動はとても良かったと思うんですが、当時は本当にただで町の職員の方が運転してくださって行けたんですが、その後もうバスもただでなんか貸してくれなくなって、そういうことに対する町の姿勢がガラッと変わっちゃったような気がします。まとめるためには町もそれなりの予算を出して、マイクロバスくらいはただで使えるようにするとか、そうしないとやっぱりいろんな組織がみんな潰れてっちゃってるように思います。老人クラブも1区と6区と3区以外みんなここ3、4年のうちに消えてっちゃって、いろんなグループがみんな消えてきちゃったもんですから、それはやっぱり町の姿勢に問題があったんじゃないかな。世の中も厳しくなって、そんなにまとまっていく気運がないのかもしれませんが、これからは大災害も起きると、人々を孤立化させないっていうことが非常に大きな問題になってくると思いますので、箱物を作るよりは、そういうことに力を入れていただいた方がいいんじゃないかなと私は感じました。

三浦喜久夫議員

下市田区のために議員は何をやっているかっていうところでいうと…できるだ

け地域のためにとっておるところですけれども、できていないという声を重く受け止めたいと思います。

いろんな団体が消えていってしまうっていう話も出ました。私も防災・減災っていうことを考えると、地域のつながりがなかったら大災害が起きた時にどうするんだろうなっていうところが頭を悩ませるところです。常会や地域の自治会でつながっていない人には、なかなか自分で足を運ばないと、未加入の人とはつながれないっていうところがあって、本当に何か起きた時にどうするかっていうところは疑問で、特にこのところは真剣にいろいろ考えていかなければならないと思っています。箱物を作るより、人のつながりを大事にすることが町として必要ではないかっていうところについては、ご意見を受けとめて、そういったところにも力を入れる形になるように、町へ伝えれるように努力したいと思っています。

光沢副区長

加入未加入はまったく自由の任意団体なので、これは町が強制力を持ってやるわけにもいかないし、限界があるんです。ただ、ここまできると、いま言われてるように大災害が起きた時に、入ってない人たちは別だという差別化が極端に進む可能性もある段階になってきていると思うんです。そういうところについて、本当にその辺の備えは自己責任と言い切れるかどうか、そういう体制に持っていくのかどうかっていうのは、区も含めて皆さんと一緒に考えていかないと。下市田も50%切ってますから、これは深刻な問題。結論はここでは出ないと思いますが、何らかの検討をやっていないとまずいと思っています。

会場から

決して議員の皆さんが何もしないわけでも何でもないとはいえませんが、いろいろ日常的につながりを持ってやっていただいているので。

例えばこれから夕映え道路の先に飯田につながる橋ができて、夕映え道路の状況も大きく変わってきたり、武陵地の交差点の問題だとか、どう国道にアクセスするかっていう問題は大きな問題になってくるんですが、そういう時に、議員さんたち

が各地区などに出向いてもらって、いろんな意見を聞いてもらって。議員さん方は議会で条例を作ったり、予算を通す通さないを議論してもらうことが一番の仕事なんです。そこにもう1つ、毎年議会からの提言ということで政策を作って、町へ提言してもらっています。かなり努力してもらってるんですが、ぜひその大きく3つですよ。

年に1回のこういう会は町内でも下市田しかやっていないと聞いていて、すごい貴重な場なんだなと私は思うんですが、とにかく住民の人たちの意見をいろいろ聞きながら、議員さん方が判断しながら、いま言った3つの大きな仕事を議会の中でやっていってもらえれば、それが私たちにも見えてくれば、何か思ったら議員さんに相談して、議会の場へ持っていってもらって何か考えてもらえるっていう、そういう流れがもっとスムーズにやれる要素が下市田にはあるなと感じるんですが、ぜひそういうことで頑張って、これからいろいろと下市田に関わる課題が出てくると思うので、しっかりキャッチして、議会で働いてもらえればありがたいと思います。